

2番作野幸憲議員、登壇願います。

作野議員の質問時間は11時41分までです。

〔2番 作野幸憲君 登壇〕

▼○2番（作野幸憲君）▽ おはようございます。議席番号2番作野幸憲でございます。議長に許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

さて、今回私が質問させていただくのは、議員になってから3年間で私が提案させていただいた項目を中心に、現在の検討状況や進捗状況について質問をさせていただきます。

私は、今政治で大事なことはスピードと実行力だと思っております。大阪市の橋下市長に対する人気があるのはこの要因によるところが大だと思っております。今まで4年かかっていたことは2年で、8年かかっていたことは4年でやる気概を持ってリーダーは対応していかなければならないと思いますし、市民もそれを強く望んでいると思います。私も4年間近藤市政を見させていただきましたが、この点についても大きな不満が残ります。

それでは、具体的な質問に移らせていただきます。

最初は、情報化の進捗状況等について質問させていただきます。

この項目は7つに分けて質問をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

私は以前よりブロードバンド・インフラ整備事業に大きな期待を寄せていました。これは整備が完成することはもちろんですが、その後の利活用によっては安来市が大きく変わる可能性があるかと確信していたからです。市長さんも、過去の私の一般質問において、ブロードバンドの活用も職員を全国へ派遣してさらなる利活用を今研究しておりますという趣旨の答弁をされております。しかしながら、私が提案させてもらった件についても、答弁は非常に前向きなものが多かったですがなかなか進んでいません。私がなぜここまで言うのかといえば、情報分野においてはスピード感のある政策、立案と実行が必要だからです。この情報分野は、日進月歩でスピード感がなければすぐに取り残されていく分野だからです。

7つの項目のまず1番目は、フリースポットの設置についてでございます。この提案は昨年12月定例会で質問をさせていただきました。

まず、フリースポットとは何かというと、フリースポットとは誰でもパソコンや携帯電話、スマートフォンから無料で接続できる無線LANのネットワーク、あるいはそのサービスが提供できる場所のことを言います。フリースポットを設置することによってのメリットは、災害時や緊急時において、携帯電話やスマートフォンから通常の接続でインターネットにつなぐことで回線が混乱し接続が難しくなることが想定されますが、この仕組みを使えばそういう中でも多くの皆さんが携帯端末から無料で情報を得ることができます。また、今の時代にはあって当たり前のツール、道具であります。そして、観光振興においても欠かせないものと今やなっております。特に、外国人旅行者にとっては、言葉の壁よりフリースポットがない場所のほうが旅行をしていて不自由を感じるそうです。昨年12月

の提案のときの答弁は、市のブロードバンド環境を生かした住民サービスの向上という観点から有意義であると考えておりますという非常に前向きの答弁でありました。あれから民間のサービスなどもふえ、環境は整ってきていると私は思いますが、進捗状況がどれだけ進んでいますでしょうか、お答えください。

2番目は、簡易屋外スピーカーの研究状況についてです。

これも、同様に昨年12月の定例会で提案させていただきました。これはブロードバンド・インフラ整備事業の一つとして、市内に23カ所設置された1台300万円ほどかかる屋外スピーカーを行政告知端末を改良してもっと安く多くの場所に設置できないかということの提案でございました。行政告知端末はおおよそ家の中でしか聞こえません。災害時、緊急時においては、外の広い範囲で声による情報が得られることが大変重要になってくると私は思います。この研究はどこまで進んでいるのかお答えください。

3番目は、公共施設でのテレビ活用についてです。これも12月定例会で提案させていただきました。

これは加入率の低いどじょっこテレビの接続を高めるとともに、どじょっこテレビとはこういう内容のテレビですよということを多くの市民の皆さんに知っていただくため、交流センターなどのどじょっこテレビが映るテレビの有効活用と、多くの人が集まるスポーツ施設や公共施設でまだテレビが設置されていない場所にはどじょっこテレビが見られるテレビを設置してはどうですかという提案でした。これについては、市内の公共施設にどじょっこテレビが映るテレビを何カ所か設置していただきました。交流センターの有効活用についてはいろいろと問題があるようですが、今後どのように進めていかれるのか、お考えをお聞きしたいと思います。

4番目は、クラウドコンピューティングの進捗状況についてです。

そもそも、クラウドコンピューティングとは何かといいますと、従来は手元のコンピューターで管理、利用していたソフトウェアやデータなどをインターネットなどのネットワークを通じてサービスを受ける形の方法で、既存の方法に比べ大幅に費用を軽減できるメリットがある仕組みです。これは、議員になってから行財政改革の面でもとても重要な問題なので提案させてもらってきました。安来市でも、第2次行政改革大綱実施計画の中の事務事業の見直しの項目の中にクラウドコンピューティングの導入の検討を入れていただきました。また、島根県でも、市町村クラウド利用検討会が立ち上がり、本格的な検討が進んでいるように聞いております。現在の進捗状況についてお尋ねいたします。

5番目は、情報化教育における電子黒板等の活用状況について質問いたします。

これについては昨年12月の質問の中で、教育長は電子黒板の設置については平成21年度に全ての小・中学校に電子黒板を整備いたしました。その活用をさらに促進してまいりたいと考えておりますと答弁しておられます。しかしながら、その後活用について私が調べてみますと、電子黒板を使うためのソフトが英語版のソフトだったりするものもあり、十分に活用されているかという面では非常に疑問が残ります。教育現場における情報化は、

学校によって大きな格差があるというのも現状です。パソコンやメディアに関して得意な先生がいる学校では物すごく進みますが、そうでない学校では一向に進みません。これで情報教育はいいのでしょうか。平等な情報教育が受けられるように、もう少し教育委員会としても真剣に考えていただきたいと思います。

そこで、電子黒板等の活用状況はどのようになっていますでしょうか、お答えください。

6番目は、いじめ問題と情報モラル教育について質問をいたします。

ご存じのように、昨年10月に滋賀県大津市の中学校で2年生の男子生徒がいじめが原因で自殺をしたと伝えられています。ことしになって、いじめの内容や学校、教育委員会などの不適切な対応が明るみになり、大きな波紋が全国に広がっております。いじめ問題については後で先輩議員の方が質問をされますので、私は情報モラル教育といじめ問題の関連について質問をさせていただきます。

情報モラル教育についても過去に何度か質問をさせていただきましたが、教育委員会では情報モラルの徹底については、児童・生徒への教育や教職員の研修を各学校で実施しております。中には、外部講師を招いたものや保護者を対象としたものもございます。また、生徒指導の観点からも研究を進めておりますとのことでした。しかしながら、これも学校によって大きな格差があると思います。現代社会のいじめはメディアを介して行われているものが数多くあり、将来に向けてこの傾向はさらに進んでまいります。そういう中で私が言いたいのは、このままの情報モラル教育で本当によいのかということです。教育委員会としても、学校任せではなくしっかりとした指針を示し、メディアになれる前の早い段階から取り組んでいかなければならないと私は思います。このことについていかがお考えでしょうか、お答えください。

この項目での最後の質問は、その他研究中的情報化政策について質問いたします。

前段でも申し上げましたように、市長さんは情報化については研究を進めていますよということですが、実際には何も見えてきません。職員を全国に派遣され、どのような調査研究が進められているのかお答えください。

次に、60回目を迎える盆野球について質問をいたします。

私は今でも現役として毎年安来市自治会親善野球大会、いわゆる盆野球に参加しています。多分、40回近く参加していると私は思っております。ふるさとを離れていた時期も、毎年お盆には帰省し、この盆野球には参加をしておりました。なぜか。野球大好きな私にとっては、ふるさとの仲間と一緒にプレーできることでふるさととつながっていることが感じられたからだと思います。いわゆるふるさとと都会をつなぐきずなのようなものだったと私は思っております。ことしも、我が自治会でもはるばる盆野球のためにお盆に帰省をしてくれた若者がいましたし、その他の参加チームの中にもそういう若者がいたことを多く聞きました。それだけ魅力のある年中行事だからだと私は思います。来年60回を迎えますが、近年、参加チームも100チームを切り年々少なくなっていますし、応援に来られる方も以前に比べ大幅に減っているように思います。

私は60回を迎える来年に向け、安来のお盆の風物詩と言ってもいいこの盆野球を見詰め直していただきたいと思います。現状を見ると予算も少なく、参加チームの負担もふえてきていると聞いています。秋に行われるなかみマラソンも、私は大好きで毎年走っていますが、こちらの予算を少し削ってでも盆野球に回していただき、伝統ある盆野球を市民もふるさとを離れた方にも魅力あるものに復活していただきたいと思います。

そこで、お尋ねいたします。

現在の予算はどのようになっていますでしょうか。また、以前はホームラン賞などの賞もあったようなことを私は記憶しておりますが、参加者に喜んでいただけるような企画などは考えておられませんでしょうか、お答えください。

それと、ことしは旧安来市内以外の参加チームがありませんでした。合併してから年月もたちますので、もう一度安来市の一体感を醸成する意味も含め、広瀬、伯太チームに参加していただけるような努力をお願いしたいと思います。

それともう一点は、運営方法です。現在は体協、野球連盟、市の職員さんで運営しておりますが、ここにボランティアの方はおられません。将来の盆野球を考え、新しい感覚を持った若い人たちに運営に参加していただくことも考えていってはどうか。例えば、甲子園出場に夢破れた市内高校の3年生野球部員などに参加していただいたりすることはどうでしょうか。たかが盆野球、されど盆野球です。お答えをよろしく願いいたします。

次に、安来節保存会会員対象の安来節振興並びに観光振興策について質問をいたします。

これも、昨年12月に提案させていただきました。この提案については早速3月、ことしの3月11日と12日の2日間、安来節家元4代目渡部お糸直接指導ツアーということで、安来節保存会会員を中心に企画していただき、姫路のほうから34人の皆さんに来ていただきました。安来節演芸館で家元じきじきの指導を受けられ、さぎの湯温泉に宿泊していただき、成果を上げられたことは非常に評価したいと思います。このような企画はぜひともこれからも続けていただきたいと思いますが、今後の方針はいかなっていますでしょうか、お答えください。

また、我が安来市は安来節と鋼の町を標榜しているわけですから、安来節を念頭にした新しい観光振興施策もどんどん考えていただきたいと思いますが、具体的に何かありますでしょうか、お答えください。

最後に、小・中学校の通学補助費について質問をいたします。

昨年2回質問をさせていただきましたが、結局財政的なことがネックで1年間先送りと言われてもしょうがない状態になっております。このことについては、毎年関係するPTA団体からも要望も出ていますし、4月に開催した議会報告会でもこのことについての強い要望が出ております。ことし3月までの検討実績もあるわけですから、今までの答弁と同じ答弁の繰り返しでは納得できませんので、基準や進捗状況についてもしっかりとお答えいただきたいと思います。

以上、多くのことについて質問をさせていただきましたが、前向きな答弁をよろしくお願いたします。

以上で私の壇上からの質問とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 近藤市長。

〔市長 近藤宏樹君 登壇〕

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 作野議員の質問にお答えいたします。

その具体的な質問の前に作野議員、ちょっと前段がありましたので、私も答弁の前段、ちょっとお話をさせていただきます。

議員おっしゃいますように、政治で大事なことはスピードと実行力である。そして、気概を持って対応しなければならないということでございますが、私も全くそのとおりであると思っております。私もこれまで工業団地の完売、あるいは大型は場整備、幼保一体、あすなろ教室の移転、就学前までの医療費無料化、医療関係学生の奨学金の創設、ブロードバンド整備、月山比婆山の整備、プロバスケットの招致……

（2番作野幸憲君「議長、質問していないことを……」と呼ぶ）

前段言わせて……

（2番作野幸憲君「私の持ち時間でございまして」と呼ぶ）

はい。じゃあ。私も、その前段で自分は失望したとか不満を持っていると言われましたので私もそれに対して言わせていただかなければ。視聴者の方は、じゃあそういう感じを持たれますので、私もそれに対してお答えする必要があるというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。これぐらいにしておきます。私も一生懸命、まだまだ本当はございますが、3倍も4倍もありますがこの辺にしておきます。ぜひとも、誤解のないようにご理解をいただきたいと思います。

まず、フリースポット、これに関しましてはいわゆる誰でも接続できる無線LAN、このネットワークでございますが、今現在どじょっこテレビと共同で実証実験という形で、安来市観光交流プラザに設置する方向で準備しておりますのでよろしくお願いいたします。

まず、具体的に申しますと、公共的なフリースポットを設置する場合にはセキュリティーの強化が不可欠でございまして、そのため核となる無線LAN機器もセキュリティー機器や電源を強化したものが必要となります。その上に監視用の機器も必要となるなど、設置数により多額の経費が必要になる可能性もあります。これらのことから、実証実験で利用状況を把握しながら、費用対効果も考慮しながら今後の展開について検討していきたい、こういうふうに考えております。

また、具体的には担当が答えますが、クラウドコンピューター、私も大変これからは大事であると思っております。クラウドは雲ということですね。そこにいろいろな情報を集約して、それをいろいろさまざま共同で利用していこうというものでございます。今、自治体も国、県、あるいは市町村も、これを本当に研究しているところでございます。企業

もその雲をどういう内容にしていくかということをごさいますして、我々も、私も本当に前向きに考えておるところでございます。

また、このコンピューターに関して利活用が進んでいないじゃないかということをごさいますますが、今視察先も職員を北海道とかあるいは横浜、あるいは大阪、あるいは企業もNEC、パナソニック等へ派遣していろいろ研究をして、先般もNTTの職員研修をやったところでございます。決して、我々じっとしているわけではございませんのでご理解をいただきたい、こういうふうに思っているところでございます。もし、議員もよい事例があれば、活用例があればぜひとも教えていただきたい、こういうふうに思っております。どうかよろしく願いいたします。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 伊達山教育長。

〔教育長 伊達山興嗣君 登壇〕

▼○教育長（伊達山興嗣君）▽ 市長に続きまして、情報化の進捗状況の教育に関する質問事項7つのうち2点、そしてもう一点、3点についてお答えをしたいと思います。

第1点目は、情報化教育における電子黒板等の利用状況ということをごさいますますが、先ほど作野議員もお話の中にごさいました、電子黒板は市内の全ての小・中学校に1台ずつ設置しております。さらに、モデル校として十神小学校には6台、第一中学校には3台を設置いたしました。黒板上で音声や動画の静止、リプレー機能を用いて算数の面積、体積の理解を深めたり、生徒が集めました情報や写真を取り込み、地図や図面に表示させる機能を活用したりしております。また、理科の授業では、さなぎからチョウが羽化するところや花がつぼみから開花するなどのデジタル化素材を授業に使用し、電子黒板を積極的に活用していると考えております。

電子黒板の活用につきましては安来市教育研究会、メディア教育部会の情報教育担当教員が使い方の研修や意見交換を積極的に行い、その使い方の普及に努めていただいております。教育委員会といたしましても、今後、実践校の取り組み状況や使用ソフトの紹介を含めた職員研修を積極的に進め、教育現場での利活用に努めていきたいと考えております。

次に、いじめ問題と情報モラルの教育について。非常に、このことは重要なことでもありますので少し多目の答弁となりますけれども、お答えしたいと思います。

情報化が進む中、メディアを介したいじめにつきましてもとても危惧するところがございます。一たびネットワークに載ってしまいますと、その対応は極めて困難さを増します。そのようなことにならないよう、子供たちがみずからの人権及び他者の人権を尊重する心情をしっかりと培っていく人権教育の充実がどうしても重要であると強く考えております。その基盤とも言える部分の充実を図りながら、ネットワーク上の特別なマナーやルール、トラブルを避ける方法などを身につけさせるという情報モラルに関して子供たちや保護者、教職員が学んでいくことは重要な課題と認識を持って、各校で取り組んでもらっておるところであります。

また、先ほど作野議員からもお話がありましたように、保護者を対象とした研修も中学校は全て、小学校は大半の学校で実施をしております。安来市教育委員会におきましても、「ちょっと待って携帯」というタイトルのDVDの資料を備え、貸し出したり学校での取り組みに紹介などをしてきております。

情報モラルの教育に関しましては、作野議員のご指摘のとおり子供が自分用の携帯電話や自由に使えるパソコンを得る前の早い年齢段階からその取り組みが必要になってくると認識を持っておりますが、子供が利用する携帯電話やパソコンは学校外での利用が大きいこともあり、どうしても家庭内での情報モラルに関する話し合いが積極的に行われることを期待しておるところでございます。

3点目でございますが、小・中学校の通学補助につきましてお答えをいたします。

遠距離通学費の補助につきましては、現在合併以前の補助基準を踏襲して補助をしております。教育委員会といたしましては、学校の統廃合の経過や中山間地に生活する児童・生徒の通学状況、あるいは保護者の思いなどを総合的に勘案して、安来市にふさわしい新たな補助基準を早急に策定する予定としております。

以上です。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 児玉総務部次長。

〔総務部次長 児玉好之君 登壇〕

▼○総務部次長（児玉好之君）▽ 失礼いたします。私のほうからは情報化の進捗状況について。

フリースポットにつきましては、先ほど市長が答弁をさせていただきましたので終わっております。2つ目の簡易屋外スピーカーの研究状況はどうかということにつきましては、告知放送システムの開発業者、それからブロードバンド・インフラ整備事業の設計業者と現在検討を行っております。費用といたしましては、既設の行政告知端末を利用してスピーカーを設置するやり方ですけれども、これが1機当たり約40万円ぐらいの経費がかかるという現在試算をしております。屋外スピーカーにつきましては、設置場所の地形それから住宅の密集等、度合いによりまして音声の到達範囲が非常に異なってくるということ、そういう状況であります。地域の住民の皆さんが希望する場所全てに音声を届けるためには、スピーカーの設置の高さを上げたりそれからスピーカーの増設、これが必要となる場合もございます。屋外スピーカーにつきましては屋内スピーカー、これは行政告知端末のスピーカーですけれども、この補助となるものと現在市では考えておりました、簡易な屋外スピーカーの設置につきましては引き続きは検討はしてまいりますけれども、当面は屋内スピーカーの設置率を上げる、これを中心に進めていきたいと考えております。

それから次に、公共施設でのテレビ活用の進捗状況という質問でございますけれども、現在市立病院、それから安来の中央交流センター、伯太庁舎のロビーなどでごらんいただいております。できるだけ多くの人に見ていただくことがケーブルテレビの加入者増加につながるものと認識しております。テレビの設置場所や来客などの状況は施設により異なる

っております。それぞれの状況から判断いたしまして、市民の皆様の視聴が可能となる、考えられる施設から取り組んでいくこととしております。

続きまして、クラウドコンピューティングの進捗状況ということですが、クラウドコンピューティングにつきましては作野議員、それから市長のほうも用語としての説明をしておられますので省略いたしますけれども、この採用につきましては作野議員、質問の中でお話しされましたけれども、ことしの3月には島根県の市町村クラウド利用検討会が設置されております。6月と8月には、県下全市町村が参加いたしまして拡大検討会が開催されたところでございます。

また、県内の各自治体でのシステムの導入状況についてのアンケートがそのとき行われまして、島根県の市町村クラウド利用検討会が委託をしておりますコンサルティングの会社によりまして、現在結果の詳細について分析作業が行われているところです。現在は、アンケートの集計結果をもとに大まかなシステムの要件、機能などの仕様が策定されている状況ではございますが、今後検討会としまして業者への情報提供の依頼とそれから見積もりの徴収を行いながら、他県で実績のあるクラウドシステムのデモンストレーションが行われる予定となっております。いずれにしましても、行政事務は県単位で標準化されているものが多くございます。現実的には、クラウドは県単位での導入が不可欠であると考えております。今後も、情報を得ながら県内の市町村と共同歩調をとるということで安来市の姿勢としております。

それから、研究中の情報化施策につきましては一部市長が述べました。補足という形でお話をさせていただきます。

現在は、市で導入できるものがないか検討するためにICタグを使いました子供や高齢者の見守りシステム、それからIP通信網を使った高齢者の見守りシステムについて、メーカーのデモや先進地視察を行っております。視察状況は先ほど市長が申しております。また、どじょっこテレビとも連携をしながら、通信機器の企画的な部分などで現在の通信線に接続可能な機器、利用可能なサービスの調査を引き続き続けております。

情報化の推進につきましては、各担当者がみずから抱える地域課題につきまして、ICTを利用してどんなことができるか研究していく必要がございます。そのため、ことしの春から近隣地域で催される展示会には全ての部署に連絡をいたしまして複数課で参加をしたり、それから先ほど市長が申しましたけれども職員研修の実施で講演などを聞いております。今後も、引き続き積極的に情報収集を行うのはもちろんですが、情報化の推進に努めてまいることとしております。

以上でございます。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 仁田市民生活部長。

〔市民生活部長 仁田隆敏君 登壇〕

▼○市民生活部長（仁田隆敏君）▽ 失礼いたします。

私のほうからは安来市自治会親善野球大会につきましてお答えをさせていただきます。

まず、大会の開催経費でございますが、大会は市と安来市体育協会が共催で開催しております。体育協会のほうから30万円、参加費といたしまして1チーム当たり4,000円、その他協賛の4団体から各1万円をいただいておりますので、総額約70万円の予算でございます。

それから、先ほどは議員のほうから盆野球を魅力あるものにするために幾つかのご提案をいただきました。何とか大会を盛り上げていきたいという思いは我々も同じでございますので、議員からご提案いただきました案も含めまして市の体育協会、あるいは野球連盟とも協議いたしましてその方策を検討してまいりたいというふうに思っております。

また、広瀬地域、伯太地域からの参加についてでございますが、広瀬地域、伯太地域におきましては合併前より盆の期間中にそれぞれ野球大会、あるいはソフトボール大会等が開催されておりますし、お盆の自治会行事と重なるというような状況がございますので、現状ではなかなか参加が難しいという状況でございます。しかしながら、市といたしましては、ぜひとも広瀬地域、伯太地域からも多くの自治会に参加していただきたいというふうに思っておりますので、引き続き関係団体とその対応について協議してまいりたいと考えております。

以上でございます。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 内田産業振興部次長。

〔産業振興部次長 内田修次君 登壇〕

▼○産業振興部次長（内田修次君）▽ 私のほうからは安来節保存会会員対象の安来節振興並びに観光振興策についてお答えをいたします。

昨年の12月議会に、マンパワーの活用ということで安来節演芸館において家元により安来節保存会の会員への直接指導をすることによって利用促進等観光振興になるのではというご提案をいただいております。家元ツアーの実績としましては、先ほどお話がありましたように3月に兵庫県のほうから34名、5月には千葉県のほうから13名の方に安来市に来ていただきまして2回実施をしております。いずれも、安来節演芸館を会場に家元から歌と銭太鼓の直接指導をしていただいております。1泊2日の日程でさぎの湯温泉での宿泊、足立美術館の鑑賞、清水寺での食事など、全行程家元と行動をともにしていただきまして参加者の皆さんからは大変喜んでいただいたところでございます。経済効果もあったというふうに思っております。

今後の考え方でございますけれども、安来節は市を代表するブランドでございます。安来節の普及振興は観光振興には必要であるというふうに思っております。家元も大変張り切っておられまして続けたいという意向を持っておられます。今後も、参加者のニーズを把握して継続して実施していく考えでございます。

続きまして、安来節を絡めた観光振興策についてはどうなのかということでございます。

現在実施しております安来節振興策でございますけれども、各交流センターにおきまして安来節教室の開催、各学校などへ保存会員の講師としての派遣、安来節保存会への事業補

助、また家元への安来節普及宣伝委託事業などをしております。今後につきましては、安来節演芸館の有効活用はもちろんでございますけども、一般の方へ安来節体験の家元ツアーの募集も検討してみたいというふうに考えております。

以上でございます。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 2番作野議員。

▼○2番（作野幸憲君）▽ ご答弁いただきましてありがとうございます。

情報化の進捗状況については担当部課で真剣に一生懸命取り組んでいただいている部分もありますので、その部分はこれからはスピード感を一層増していただいて、情報化というのは一日、一月おくれてもすごく差がつかますので、その部分をしっかりとやっていただきたいと思います。

それと、盆野球については私ずうっと出ておりますので、非常に都会に出ている人たちにとっても地元と安来市とをつなぐ非常に大事な行事だと思っております。なかみマラソンのように外部からたくさんのお客さんを呼ぶスポーツイベントも大事だとは思いますが、やはり私は地元にいる安来市民が一生懸命になれる、あるいは伝統があるものについてはしっかりと残していただく、私はそちらが先にあって外部から呼んでくるというようなイベントは考えていただきたいと思います。

それと、安来節保存会の関係の皆さんのツアー等はこれからも続けていただきたいと思っております。私ども議員も、ことしの3月末から家元に直接正調安来節を十数回にわたってご指導をいただきました。私も今まで安来節というものを習ったことはございませんでしたが、安来節のすばらしさと難しさもここに感じてきております。当然、会員の皆さん方は家元さんから直接教えていただくということの感動の度合いは私たちと比べ物にならないぐらいあると思いますので、これについても観光振興としっかりと結びつけていただいて、もっともっと安来節が繁栄していくことをお願いしたいと思います。

最後に、小・中学校の通学補助についてですが、なかなかこれ以上の答弁を求めても難しいところがあるように感じておりますので、とにかく1年間先送りというような、言い方を変えればなっております。私は、学校給食の件も長年やりますよやりますよと言ってきてなかなか結論が先になってしまっている。言い方を変えれば、保護者の皆さんやそれに関係する皆さんを裏切ってきたという面もあると思います。この通学補助の件も、そういう意味では早く、来年の3月までにはしっかりと結果を出していただけると確信をしておりますが、これについても保護者の皆さん、地域の皆さんが納得できる方策をお願いしたいと思います。

時間になりましたので、以上で私の一般質問を終わらせていただきます。清聴ありがとうございました。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 以上で2番作野幸憲議員の質問を終わります。